

未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成する | KUNOモデルの開発

〔研究開発の背景〕

生野鉱山閉山から47年。薄れゆく鉱山町としての意識・気概など「IKUNOプライド」継承に期待する声が大きく、地域の協力体制は手厚い。地域課題が山積する一方で「日本遺産」認定など、豊富な地域資源が日の目を浴びる追い風が吹くなか早急な「地域×高校」の学びのシステム構築が求められている。また、これからの未来に必要な「お金の知識」・「テクノロジー（未来の暮らし・仕事）」の知識習得に必要なカリキュラム作成を目指している。

生野高校

+

コンソーシアムIKUNO協議会

福知山公立大

朝来市

兵庫県教委

(株)ZMP

神戸山手大

いくの自治協議会

全但バス株式会社

NPO法人いくのライブミュージアム

但陽信用金庫

奥銀谷自治協議会

(株)シルバー生野

社会福祉法人いくの喜楽苑

朝来市商工会

生野町観光協会

NPO法人日本ハンザキ研究所

生野町温泉開発株式会社

〔令和元年度の目標〕

組織・体制づくりの構築

● コンソーシアムIKUNO協議会 実施 [6/14・11/16・2/11]

コンソーシアムの連携強化を目的に各団体より担当者出席の意見交換会を実施。

● 教員研修会の実施（ファシリテーション・テクノロジー・探究活動）

カリキュラム開発

● 探究活動の設計

令和元年度入学生（1年次・2年次）・令和2年度入学生（1年次）の探究活動にかんする授業のカリキュラムおよび教材の検討・作成を行う。

● 『テクノロジーの授業（講師：外部講師）』・『お金の授業（講師：コンソーシアム）』

それぞれ令和2年度入学生を念頭にカリキュラム作成と、令和元年度入学生を対象に実践。ただし一部、年度末の休校により授業開講ができなかった。

取組実践

● 『但馬地区高校生フォーラム』開催 [2/11]

本校が主催。但馬エリアの8校が集まり日々の探究活動の成果発表を行った。

本事業の認知度向上

● IKUNOモデル 地域探究授業の愛称とロゴの決定

『ゆめいく（生野で夢を育てる + You make!）』

→ 学校内外への周知において「地域探究学習」よりも親しみ易く、独自性が高い愛称とロゴマークを決定し事業のパッケージ化。今後の目標共有・事業の認知度向上を目的に活用する。



〔成果〕

● コンソーシアム協働実践《一例》

日本ハンザキ研究所との協働により、幼児期の子供達に「オオサンショウウオ」を伝える絵本を制作。こども園での読み聞かせ。朝来市の予算による増刷検討。令和2年度秋開催のオオサンショウウオ全国大会 招待など、協働を密にした発展的な取り組みが行われた。



● 未来の暮らしを考える「テクノロジー」の授業実施

① 東京大学大学院 特任准教授 全 邦釘 氏

② (株) ZMP 谷口 恒 氏

③ NPO法人コミュニティリンク 中西 雅幸 氏

テクノロジーによる未来の変化、未来で暮らす・働くに触れる。AI・IoT・スマートシティ・自動運転など最前線の専門家に学ぶ。



● 「まちづくり部」発足

授業よりも深い探究活動に取り組む体制づくりとして「まちづくり部」を発足。より丁寧な技術指導や、地域と協働のプロジェクト型の取組を行う予定。「部活動と授業」で同テーマに取り組める仕組みづくり。



ドローン飛行体験



〔課題〕

● 職員の取り組み姿勢の温度差

初年度は1学年の取組中心のため学校全体の広がりが弱く職員間の温度差が課題
→ 先進地視察に事業担当者と担当外のサポート職員が同行。校内で還元研修を実施し、職員間で共有。

● フィールドワークの移動手段の確保

チャーターバスは費用が高く「調べ学習」から脱却するためのフィールドワークに工夫が必要